

彙報

京都大學文學部哲學科卒業論文題目

——昭和三十五年三月——

哲學專攻

崔 圭成 デカルト研究

土屋純一 ライブニッツの理由律

西洋哲學史專攻

岡崎滿義 ソクラテスの死

高月章而 ホッブスの第一哲學

田中一男 ヘーゲル法哲學における市民社會觀

戸田省二郎 カントの想像力について

——「純粹理性批判」第一版を中心に——

山崎隆司 デカルト説における「誇大な懷疑」の意義

中國哲學史專攻

加地伸行 孝經研究

心理學專攻

石田裕佑 學級集團におけるリーダーの「要因」に関する發

達的研究

岡田公之 コミュニケーション効果におけるパーソナル・フ
アクター

黒住宗晴 運動部のモラルを規定する二、三の要因につ
いて

古石 明 集團壓力の集團成員に及ぼす効果

清水益實 コミュニケーションの發達心理學的研究

その一、五名の乳兒保育所兒の自然觀察による

探索的研究

中神省子 重さの絶對判断について

——判断の「變化」をきめる條件——

前田民子 役割期待の實驗的研究

望月展也 奥行方向のS効果について

美學美術史專攻

周郷顯夫 人間存在と藝術

長谷川利治 フォルムについて

松島滿壽男 近代諷刺畫の潮流

宮島久雄 美的判断の可能性

——カント美學の成立に關連して——

森下和行 世阿彌の美意識に對する一考察

社會學專攻

石塚 武 大衆社會の權力構造

井上 宏 藝術と社會との關係

大出俊幸 主に文學の社會學的考察——
日本村落構造の研究

澤瀉久元 廣島縣双三郡作木村岡三洲部落——
文化遲滯説考

高木洋祐 社會調査の信賴性について

高橋三郎 日本軍隊の社會學的分析

坪内良博 犯罪と都鄙
——都鄙における犯罪現象の社會學的研究——

寺田道夫 民族的性格の研究方法について

新田義重 マス・コミュニケーションの機能と役割

嬰木義彦 産業社會學

——勞使關係論——

宗教學專攻

高阪松太郎 惡と自由の問題

長谷正當 ベルグソンの「純粹記憶」と自我の根底

基督教學專攻

野口富生 預言者エレミヤに於ける sheqer の概念

京都大學大學院文學研究科哲學科

修士課程修了論文題目

——昭和三十五年三月——

哲學專攻

訓覇曄雄 カントの實踐的世界
——事實としての自由の意味——

高橋治男 スピノザの感情論

濱田貞時 神的必然の本性について

松浦藤一 批判の方法をめぐる問題

安井惣二郎 イギリス經驗論に於ける普遍の問題

西洋哲學史專攻

津村寛二 プラトンの後半期におけるデアレクテイケーと

エイドスの相互關係について

長末 博 cogito ergo sum の論理的解釋

平野大洲 プラトンの「魂の不死」のロゴス

中國哲學史專攻

戸川芳郎 中國における古代的思惟に關する一考察

心理學專攻

上總貴美子 汎化と媒介過程

小牧純爾 白ネズミによる辨別學習における過剰學習の機能
佐々木土師一 時程繼時比較の研究

海惠宏樹 ŚLOKAVĀRTTIKAに關説された唯識論
寛 無關 一闡提 (Ichāntika) の一研究

松原 久 分配行動における價值轉換に關する研究

倫理學專攻

京都大學大學院文學研究科

佐伯敬夫 デューイにおける經驗の構造

博士課程單位修得者研究發表題目
(哲學科關係)

——世界觀と人間觀——

田中芳美 ヘーゲルの法の哲學に於ける市民社會に就いて

——昭和三十五年三月十四、十五日、

美學美術史專攻

岡本重溫 造形藝術における知覺と創造の機構

哲學專攻

清水善三 平安初期に於ける密教美術の特質

青木隆嘉 フッサールと前述語的經驗

原田平作 クールベについて

池田隆正 生存の本質經驗

馬場左多子 エジプト藝術論

——ニヒリズム克服への一提言——

社會學專攻

金屋平三 戦後日本の家族における葛藤と緊張

大田章夫 知識と信仰
知覺經驗と經驗的認識

越井郁朗 社會的自我的形成と相互作用の過程

西洋哲學史專攻

小關三平 インテリゲンツィヤ研究

種山恭子 「世界靈」に關する一考察

宗教學專攻

中國哲學史專攻

新井昭廣 消極哲學と積極哲學との區別について

鈴木 茂 春秋公羊傳における價値の系列

仏敎學專攻

印度哲學史專攻

中祖一誠 ウパニシァッドに於ける個人的主體原理について

心理學專攻

池田 進 二刺激比較法による見えの距離の測定の問題

鳥居直隆 感性過程に於ける交互作用について

岨中 達 認知の發達心理學的研究

美學美術史專攻

鈴木健二 北方に於ける近世繪畫の成立過程に關する一考察

新田博衛 作品の觀照

社會學專攻

會田 彰 勞働組合の指導構造

——組合の官僚制の一分析——

口羽益生 未開社會における秩序と統制

高島昌二 プレッシュャー・グループスに關する諸問題

宗教學專攻

河波 昌 シェリング積極哲學の成立の基礎と „Vernunft“

の意義について

松塚豊成 カント宗教哲學に關する一考察

——特に惡の問題について——

松山康國 無底と惡

前 號 目 次

インド論理學の基本的性格……………梶山雄一

知ることと認めること(未完)……………森口美都男

必然ということ……………種山恭子

——テマイオス解釋の一斷面——

新着外國雜誌所載論文一覽

次 號 論 文 豫 告

結 合 點……………植田壽藏

——目の寄り合う場所——

原初期ギリシヤとハイデッガー……………田中加夫

目的論的人間の定位……………鹿毛誠一